

# 1

## 活力を生み出すまちづくり

### 1-1 農業の振興

#### ■現況と課題

##### ○農業構造

#### 1. 担い手の育成・確保と経営の体質確保

近年の農業を取り巻く状況は、長引く経済不況のあおりを受け、農産物価格が低迷していることから、農業者数が加速度的に減少しています。また、今後の大きな不安要素としてT P Pの方向性が見えないといった状況があります。

国では、深刻化する担い手不足を解消するため平成24年度より新規就農者への支援を行います。当町では既に独自に支援策を講じておりますが、農地や受入体制を更に強化するために、産業団体との連携を深める必要があります。

#### 2. 経営の基盤強化

耕地面積の9割を超える牧草地は、当町の基幹産業でもある軽種馬にとって、重要な農産物となっています。しかし当町は平坦地が少なく急勾配のところが多いため、機械作業の効率性が悪い状況にあります。更に泥炭地質であることから、排水不良による生育障害を起し、収量低下を招いている状況が見受けられることから、より効率的な農業基盤整備が求められております。

また、耕作農地が飛び地となっているところも多く、作業効率が低いことから、生産性のコストを引き上げるための取り組みが求められております。

その他、経営の強化のためには、設備投資が必要ですが、当町の農家は小規模が多いことや長引く経済不況などから資金融資の査定が厳しい状況にあることから、利子補給などの経済的支援策の充実が求められています。

#### 3. 地産地消の推進

B S E、口蹄疫や福島原発事故による放射能汚染など食の安全性が問われる事件が相次いでおり、安心安全な食へのニーズが近年、急速に高まっています。

このことから、地元産の農産物への関心も高まり、全国的にも地場産品発信源の拠点として直売所の運営が活発化しています。

当町も町内の農家などの有志により、農協をはじめ各地で直売所の運営を展開しています。今後、更に農産物の種類や量を増やすなどの商品力の向上が求められます。

## ○軽種馬

### 1. 生産・経営基盤の強化

当町の基幹産業である軽種馬生産は、競馬の国際化、長引く経済不況やレジャーの多様化などにより、中央・地方競馬の馬券売上が減少傾向となっていることから、その経営は、非常に深刻な状況となっています。

そのため、生産コストの削減を行う一方で、施設整備も必要となりますが、零細農家が多く、投資を行うにも資本力に限界があり、既往債務による新たな与信が困難であり、抜本的な経営改善に取り組むことが強く求められています。

最近、中国で競馬事業に関心が高くなっており、軽種馬を購入するケースが増加しています。国内での販売が芳しくない状況下であり、軽種馬生産界や市場関係者は、経済発展を続ける中国への軽種馬の輸出拡大への期待感を持っていますが、検疫期間が長く、また体制も不十分となっていることから、その整備を進めることが今後の販売促進への重要な課題となっています。

### 2. ホッカイドウ競馬存続運動の推進

北海道の軽種馬産業を長く支えてきたホッカイドウ競馬は、町民などの大きな協力を得て、当面、存続することとなりました。しかしながら、経営は依然厳しい状況には変りはなく、今後も存続運動を続けていく必要があります。

## ○酪農・肉畜

当町の酪農経営は、比較的中小経営規模であり、年々減少傾向にあります。

生産面では、全体的に乳質の悪化が見られ、改善が求められています。一方、経営面では、乳飼比が高い農家が見られ所得低迷が続いており、コスト低減に向けた取り組みが必要です。さらには、労働力不足、自力での休日の確保が困難となっている状況もあることから、組織的な労働力や休日の確保が求められています。

肉用牛生産は、軽種馬生産との複合転作目として生産拡大が図られてきましたが、昨年の東日本大震災に伴う原発事故以降、枝肉価格の低調が続く一方で、飼料価格が高騰している状況が続いており、経営安定化を図るためには、これまで以上に生産コストの低減と資質の向上が求められています。

## ○耕種

夏は冷涼で、冬は雪が少なく温暖である当町の気候特色を活かし、イチゴを当町の振興作物として、拡大を進めています。近年、全国的に出荷量が落ち込む夏期に収量が期待できる夏イチゴは、東京、大阪、札幌などの市場から安定した需要もあり生産に力を入れています。また、新規就農時の生産作物としての推奨していることから、生産基盤の整備拡大が必要です。

アスパラガス生産については、軽種馬からの転換・複合作物として奨励し、今後、安定した生産量を確保するため、基盤整備が必要となっています。

花卉生産については、資材費や燃料費の高騰により、生産コストが上昇していることから、その対策が求められています。

### ○農林業被害の防止

エゾシカによる農林業への被害は、頭数の増加に伴い年々増加傾向にあります。これを受け、国では有害鳥獣対策を強化するため、特別措置法の設置を行い、対策への財政支援を行うことになりました。当町でも平成22年度に囲い罠によるエゾシカの捕獲施設や解体焼却施設の設置をし、平成23年度には電気牧柵設置支援を実施しています。

また、日高管内の有害鳥獣対策協議会を発足させ、駆除奨励金などを充実させる対策を講じており、これに伴い平成23年度の駆除数は、前年度と比べ約2倍の捕獲数となっています。

しかしながら、依然エゾシカによる農作物への被害は、減少するまでには至っておらず、また、捕獲者であるハンターの高齢化や減少化も進んできており、その対策が求められています。

## ■今後の方向性

### ○農業構造

#### 1. 担い手の育成確保

- (1)農業人口の高齢化・減少化に歯止めをかけ、地域農業の活性化を図るため、浦河町担い手育成総合支援協議会が中心となり、新規就農者や農業後継者の支援を行います。
- (2)優れた経営センスを持つ農業後継者の育成確保は、当町農業の発展の根幹をなすことから、農業後継者団体への活動を支援します。

#### 2. 経営の基盤強化

- (1)小規模な土地改良事業や道営事業の中山間地域総合整備事業を計画的に行うなど、農業基盤整備を支援します。
- (2)生産コスト削減のため、農地の集約化を進めていきます。
- (3)安定的な農業経営が図られるよう農業関係資金制度の利用促進、低金利資金への融資など、農業経営基盤強化の対策を推進します。
- (4)国の戸別所得補償制度に基づき、自給力向上や経営の強化のため、制度の運用を推進します。
- (5)国の補助事業等を活用し、農業基盤整備や設備投資支援などの運用を支援します。

#### 3. 地産地消の推進

- (1)地域農産物の消費拡大を推進するため、イベントなどにおいて、牛肉・羊肉・米・野菜などの地元農産物の消費拡大キャンペーンを推進します。
- (2)より高品質で安心安全な農産物の収量増加や農産物の種類を増加させ、魅力ある直売所運営などを推進するため、施設園芸ハウスの設置に対する支援をします。

### ○軽種馬

#### 1. 生産・経営基盤の強化

- (1)経営農地の拡大、昼夜放牧の実施、中期育成の充実、繁殖牝馬群の整備など個別経営では解決が難しい課題が多いことから、生産、育成など経営形態の組織化・分業化を推進します。
- (2)外国産馬あるいは大規模経営産駒に対抗する競走馬を生産していくため、必要な技術講習などを実施し、先進的な飼養管理などの技術向上を図ります。
- (3)既往負債により経営が困難な状況にある生産者の借入償還不能額について、長期低利資金の借換えを実施しながら、経営改善計画に基づく経営安定化を図ります。
- (4)農家経営の安定を図るため、肉用牛や施設園芸などの作目との複合化、あるいは経営転換を推進します。
- (5)軽種馬生産者各々では解決できない経営環境における様々な課題について、日高軽種馬振興対策推進協議会をはじめとする団体組織や生産者団体との連携・協力を図り、課題解決に努めます。
- (6)中国などへの軽種馬の輸出を確立するためには、検疫所の整備強化、内外の協定や法律など解決しなければならない課題があることから、国をはじめとする当該関係団体に対し、その実現に向け、生産団体等と連携を図っていきます。

## 2. ホッカイドウ競馬存続運動の推進

- (1)ホッカイドウ競馬存続のために、日高軽種馬振興対策推進協議会が実施する売上増進対策事業に対する支援をします。
- (2)生産者団体をはじめとする関係団体との連携・協力を図り、門別競馬場へのツアー、協賛競走の実施、場外馬券発売所「アイバ浦河」を活用した集客イベントの開催、馬産地としての売上増進に努めます。

### ○酪農・肉畜

- (1)生産性の向上と収入の安定化を図るため、乳牛検定データを活用した経営分析は最も効果的であることから、乳検事業の推進、加入促進を図ります。
- (2)労働力の軽減、休日の確保のため、ヘルパー事業の活用を支援し、ゆとりある酪農経営を推進します。
- (3)繁殖改良を行う育種価データ取得のため、また地域ブランドの確立を図るため、肥育取り組みの拡大による地域内一貫生産体制を推進します。
- (4)粗飼料を主体とした飼料給与、飼料畑の確保、公共牧野の有効活用などにより低コスト生産への取り組みを推進するとともに、優良繁殖後継牛の自家留保を奨励し、積極的な改良増殖を推進します。
- (5)育種価の高い町内繁殖雌牛の受精卵を活用し、地域内繁殖雌牛の改良増殖の取り組みを推進します。

### ○耕種

- (1)地域振興作物である夏イチゴの産地として、更に確立するため、新規就農者対策とリンクさせながら、作付面積の拡大を目指します。
- (2)アスパラや花卉の安定的な収量の増加を図るため、ハウス設備設置助成をします。
- (3)アスパラについては、苗助成を行い、生産コスト削減の支援をします。

### ○農林業被害の防止

- (1)浦河町鳥獣被害防止対策協議会を中心としながら、エゾシカ駆除対策を推進します。  
また、ハンターの高齢化・減少化に対応するため、狩猟者免許の新規取得者に対し支援をするとともに、「くくり罠」の購入助成を行うなど、捕獲強化策を講じていきます。  
更に、様似町・えりも町と連携し、電気牧柵設置の助成などを推進します。



## ■実施事業

### ○農業構造

- ・経営改善センターへの協力
- ・農業経営基盤強化資金利子補給
- ・研修制度の充実
- ・農業関係資金制度の有効活用
- ・農業改善促進資金
- ・農業用ハウス低気圧被害復旧資金利子補給金
- ・戸別所得補償制度推進事業補助金
- ・新規就農者の支援
- ・新規就農支援センター
- ・農業担い手支援対策事業
- ・道営中山間地域総合整備事業（日高幌別地区）
- ・小規模土地改良事業
- ・国営明渠排水路管理費補助
- ・道営畑総事業償還補助金
- ・道営担い手育成畑総事業償還補助金
- ・団体営土地総事業償還補助金
- ・農地・水保全管理支払交付金事業
- ・農業用廃プラスチックのリサイクルへの取り組み
- ・学校給食への地場産米の導入

### ○軽種馬

- ・軽種馬経営構造改革支援事業促進助成金
- ・馬産地再活性化緊急対策事業
- ・強い馬づくりのための技術普及事業
- ・診療体制の充実（研修会等の実施）
- ・研修会・講習会の開催
- ・軽種馬経営強化改善資金利子助成事業
- ・軽種馬生産等複合・転換対策事業
- ・浦河町軽種馬振興対策推進協議会補助金
- ・クラシックレース等優勝馬生産牧場報償等
- ・予防接種事業（JRA補助）
- ・優良種牡馬の導入の要請活動（軽種馬協会、JRA等）
- ・交配料の軽減の要請活動（軽種馬協会、JRA等）
- ・不採算繁殖牝馬の早期更新や淘汰の推進
- ・生産馬の販路拡大の研究
- ・浦河町軽種馬ファームヘルパー利用組合補助金
- ・ホッカイドウ競馬存続運動の推進

- ・ホッカイドウ競馬特別レース附加賞
- ・道営競馬浦河ファンクラブとの連携

### ○酪農・肉畜

- ・第4次浦河町酪農、肉用牛近代化計画の推進
- ・飼養管理技術の向上（研修会等の実施）
- ・乳牛検定組合の活動支援（乳牛検定事業補助金）
- ・酪農ヘルパー事業促進補助金
- ・肉用牛生産地域内一貫経営体制確立
- ・飼料の自給率の向上（普及指導）
- ・公共牧野の有効活用
- ・飼料畑の確保（指導等）
- ・積極的な改良増殖の推進

### ○耕種

- ・土壌改良等の指導誘導
- ・施設園芸用ハウス設置事業補助金
- ・栽培技術の向上（誘導・指導）
- ・肥培管理等の適正化（誘導・指導）
- ・農業経営安定化対策支援事業
- ・有機質の土づくりの推進（誘導・指導）
- ・三石ブランドとの連携

### ○農林業被害の防止

- ・シカ焼却施設の運営
- ・新規狩猟者育成確保促進事業
- ・くくり罠助成事業